

戦没者慰霊事業と神戸新聞連載「ビルマ地獄の敗走」(17回)記事

戦後御英霊70回忌を終えて

戦後七十年を迎え、今迄に執り行っていました慰霊法要を総括致しました。今年、数え年で九十四歳を迎えることが出来たことを感謝しております。

私の様な体が弱くて乙種合格の走者が最終コーナーで何とトップを走っている姿に全く感謝の外ありません。

なぜこの様にうまくいったのかと言うと、母が偉かったのだと想います。

私の母は熱心な仏教信者で、「靈感師」の資格を持っていました。軍隊に入る当日の朝、私を仏壇の前に座らせて、御題目三唱した後、こう言いました。

「淑郎は御先祖様の守護霊が守ってくださいさる。安心して任務を達成しなさい。間違っても本心良心に悖ることはするでない。見放されたら命はないよ」

そう断言した言葉を、肝に銘じました。

そのため戦場では、皆が一番忌み嫌う死体整理を分隊長の私が率先して引き受けたので、部隊より激賞されました。生還できたのは、「天命の力」を授かりし為と感謝致しました。

私は、そのお力で戦後も戦没者慰霊に専念しビルマを訪問、現地供養七回、現地慰霊碑建立。ビルマ僧籍取得の上、法要を執り行つて参りました。

また、高野山ビルマ戦没者摩尼宝塔奉賛会の副会長兼事務局長を担任し、本日に至っておりますが、平成二十七年、七十周年を以て遺族会員にバトンタッチ致しました。

幸運はその御蔭だと常々感得致しております。

平成二十七年は戦後七十年に当たり、新聞社やテレビ局から取材を受けることとなり、戦友会の制約が解けたことから「生の聲」を届けることが出来ました。

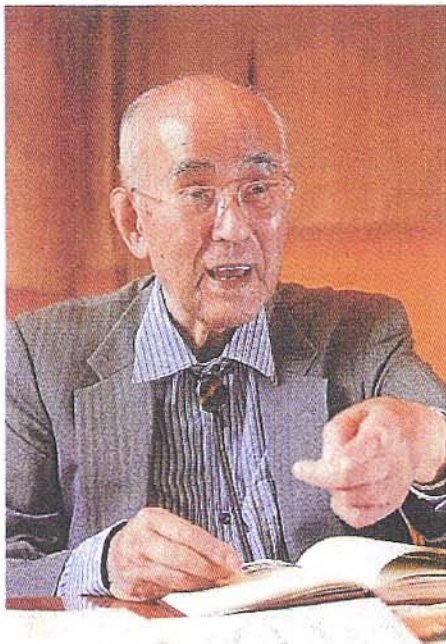
この度、感謝の気持ちを込めまして、神戸新聞の連載全文を掲載した「戦後御英霊70回忌を終えて」を上梓致しました。ご一読いただければ幸いです。

平成二十八年二月 九十四歳

今里 淑郎

飢え、病気追い打ち 日本軍の死者19万人

「殺してくれ」迫る傷病兵



ビルマ戦線を振り返る今里淑郎さん（宝塚市）

ビルマ地獄の敗走

「ジャワの虐案、ビルマの地獄」。太平洋戦争中、日本兵たちは南方の戦地をそう呼んだ。無謀な作戦の代名詞「アンパール作戦」をはじめ、敗走を重ねたビルマ（現ミャンマー）戦線は、それほど過酷だった。投入された約30万人のうち、戦闘や飢え、病気で約19万人が命を落としたとされる。だがミャンマーは政情不安が続く、遺骨収集さえ進まなかった。回内にも眠る遺骨は約4万5600柱。民主化の進展で、日本政府はようやく少数民族支配地域への調査団派遣を近く再開する方針を固めた。シリーズ「戦争と人間」第7部は、地獄を生き抜いた今里淑郎さん（93）の宝塚市と、細谷寛さん（96）の神戸市垂水区の記憶をたぐる。（森 信弘）

ビルマで日本軍は英軍「ぼろぼろの薄いシヤ」中心の連合軍と戦って、ついに破れた。半歩も身にしがみついできてた。1944（昭和19）年。秋、現地に着いて間も持たず敗走し、ひよこと来て目の前、倒れない今里さんは、中国との国境に近い北部、パールをめぐって、バ赤痢やとと思うんやけて隣接のインドへ攻め込ん毛付近で変わり果てた姿、体力あらんからね。んだインパール作戦は同、そういう兵隊がうらうらう年7月、失敗に終わる。



戦地の状況について図を描いて説明する細谷寛さん（神戸市垂水区木多間4丁目）



「シヨックもシヨック。これが日本人の成れの果てか。また、徹底的な負け戦とは知らなんだわや。歓喜の旗で送られた。敗走する中、45（昭和20）年7月、敵中を突破する広大なシタン河の渡河作戦に挑んだ。一方の細谷さんは、陸軍第55師団衛生隊の担架兵としてビルマに派遣された。敗走する中、45（昭和20）年7月、敵中を突破する広大なシタン河の渡河作戦に挑んだ。

「途中で動けなくなったら、もうおしまいという感じでした。負け戦けたら白飯がほしい入った飯を、持って行って。普段やったら病院に収容して治療できるけど、できない。捨てていって、別れたんですけど、それからはなかつたです。」

シリーズ 戦争と人間 第7部

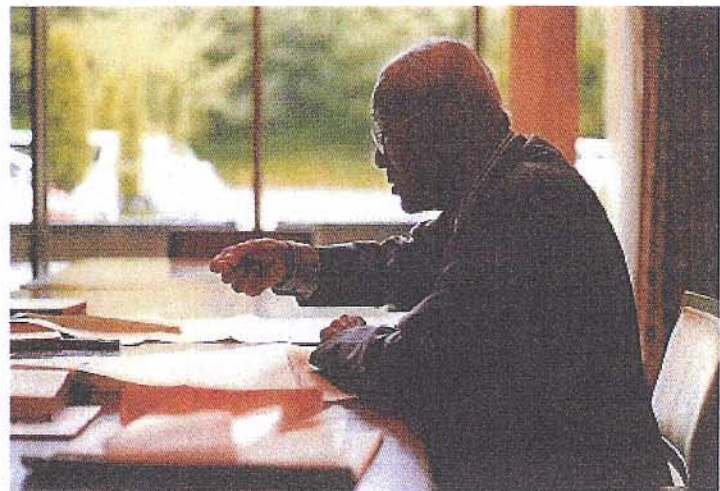
ビルマ 地獄の脱走 2

宝塚市の今里淑郎さんの先生に勧められて飛ん(93)は1922(大正11)年、兵庫県長尾村(現宝塚市)に生まれた。41(昭和16)年春、大阪外国語学校(現大阪大外国語学部)の夜間部に入学。職工(工業)学校を卒業し、やがて来ると思われていた米國との戦争に向け、英語を学ぶつもりだった。しかし、今里さんは意に反してビルマ(現ミャンマー)語を勉強することになる。

「けんかするのには、相手のことが分かんなくてきんわな。これからアメリカと戦争になるから英語が必要になる」と学校

宝塚市の今里淑郎さんの先生に勧められて飛ん(93)は1922(大正11)年、兵庫県長尾村(現宝塚市)に生まれた。41(昭和16)年春、大阪外国語学校(現大阪大外国語学部)の夜間部に入学。職工(工業)学校を卒業し、やがて来ると思われていた米國との戦争に向け、英語を学ぶつもりだった。しかし、今里さんは意に反してビルマ(現ミャンマー)語を勉強することになる。

「大阪外国語大学70年史」によれば、44(昭和19)



「教育の目的が戦争になっとなんや」と語る今里淑郎さん＝宝塚市宝梅2(撮影・峰大二郎)

英語は中止「南方語」学ぶ

が戦争の影響を強く受けていたのは間違いない。

「入学前、スピーカーを作った松下無線が工業学校の卒業生を募集しとってね。私は金の卵みたいなものや。いきなり中堅幹部で迎えられたんでっせ。それで、外国語学校は受かってから夜間に変えたんやけど、南方語の片言が分かるようになったら行かんようになったね。でも、ビルマに行った時はおかげで助かった。言葉を知つてると、現地の人々の反応が

「一番上の『甲種合格』のものは、会社で引き継ぎをしとった。私は残る側やったのに行くことになつてね。そら、誇らしい気持ちやった。俺も一人前やと。今の人には分からんやろうけど、あのころは兵隊に行けなんだら恥ずかしかったわけやな」

年になつても英米科は存在している。大阪大には「太平洋戦争突入後は、英語が『敵性語』と目の

は「太平洋戦争突入後は、起ると蒙古語部がもてはやされ、日中戦争後は支那語部が人気の的となつた」とも。外国語教育

分分かるからね」

41(昭和16)年12月、太平洋戦争が始まる。今

43(昭和18)年4月、現在の篠山市にあった兵営の営門をくぐつた。(森 信弘)

ビルマ 地獄の敗走

3

現在の篠山市に兵営が
あった陸軍歩兵部隊（後
の第168連隊）に配属
された宝塚市の今里淑郎
さん(93)は、幹部候補生
に選ばれた。3カ月間の
初年兵教育を終えた19
43（昭和18）年7月ご
ろのことだ。

「試験は、工業学校を
出たら受けられるわけ
や。乙種（5段階の2番
目）の補充兵として入っ
とるのに、間違つて受け
たら通つてもたんやな。
通つたんは初年兵150
人のうち5、6人やった
かな。それから幹部候補
生の甲種（将校）と乙種
（下士官）に振り分けら
れて、私は乙種になった。
部隊に入った時は二等兵
やけど、受かったら、1
大尉へ渡る。6月には、

地図を指さしながら戦争体験を振り返る今里
淑郎さん。「ビルマに入るまではのんきなもん
やった」＝宝塚市宝塚2へ撮影・峰太（一郎）



戦地へ赴任命令「喜んだ」

ね。それ、きつかったで。
鉄拳どころか、底にびよ
ろを打つとるスリッパで
殴る。血が出るなんてし
よっちゅうや。掃除や銃
の手入れとか、難癖なん
てつけよう思つたら、な
んぼでもあるよ」

44（昭和19）年1月、
篠山の部隊は朝鮮半島の
後、体が弱いから内地に
残つとつたわけや。篠山
で通信兵の教育になつと
つたら、通信の分隊長に
前、英国領だった。日本
志願兵も多くてね。真面
だ。（森 信弘）

九州や四国の兵とともに
歩兵第168連隊として
編成され、ビルマ（現ミ
ャンマー）へ向かおうと
していた。

「私はモールス信号や
分隊長の教育を受けた
やけど、当時は戦地に行
くことを喜んでつた」

欠員が出たからすぐ来
い、と命令が来てね。眞
数合わせで都合のいいの
「援蔭ルート」の遮断な
どを目的に42（昭和17）
年1月に侵攻。同年5月
に全土を制圧したが、今
里さんらが向かったころ
には連合軍の反攻にさら
されていた。

ビルマは太平洋戦争
「連隊には、朝鮮人の
9月にビルマの土を踏ん

目で優秀やつたで。差別
がある中で飛び込んでき
たんやから。ところが日
本人は朝鮮人、朝鮮人言
うてな。何か物がなくな
つたら疑われる。そうい
うところがありました
ね」

ビルマ 地獄の敗走

4

ビルマ(現ミャンマー)で「くれ」と今里さんの下に渡った今里淑郎さん。半身にしがみついていた。(93) 宝塚市 たちの歩

兵第168連隊は、「断作戦」に参加する。ビルマ北部の周辺で、連合軍の弾も、自決のためにはが中国国民党政府に物資を送る「援蒋ルート」を断する狙いだった。1944(昭和19)年の秋、今里さんは、中国との国境に近いパーモ付近にいた。そこには飢えや病気があふれ、「殺し



幼い子の写真、手に絶命



ビルマ戦線で立ったまま亡くなっていた兵士を描いた水彩画(元日本兵による作品から、NPO 法人神戸ミャンマー皆好会提供)

同年9月には、ビルマに近い中国・雲南省の拉孟と騰越(現在の龍陵県と騰冲県)で、日本軍の守備隊が玉砕していた。

「どこからか退却中に落後して、さまよってたんでしような。まだ生きてるもんも、連れて帰れるような状態じゃなかった」

その後、今里さんたちは、断作戦の一環で、中国軍の攻撃を受けるパーモの守備隊救出に臨む。

「ビルマへ来て、まだ

と。上からの命令で手りだから『殺してくれ』とドスンと倒れる。首筋に

かかったね」

ゆう弾は渡すな、敵に投

すがりつかれても、水筒うじ虫がわいとった。見

てくれた、というふうになつてきてたんです。ビ

ルマに渡って最初の散発

的な戦闘では、そんな

「年のいってる召集兵写真をその人のポケット

ちくさいと言われんか

がね、木の陰で写真を持

にしもたつたんですわ。年7月に中止。北部でも

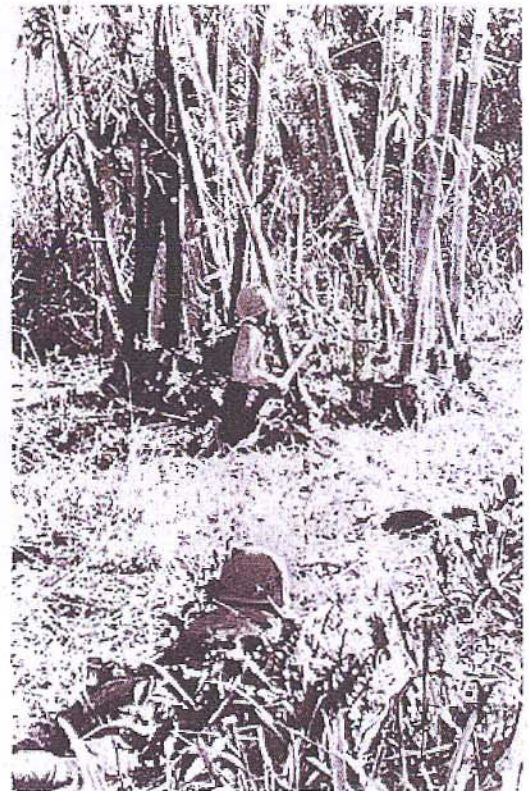
つたけど、時間がたつて

「いやく」肩をたたいたら、まま置いとかなしやあな

ビルマ 地域の戦走

5

1944（昭和19）年も受けとるわけや。それ12月上旬、中国との国境までに出会った中国兵はに近いビルマ（現ミャンマー）北部のバーモ。日軍傘持って来たたりし本軍の守備隊は中国軍に包囲され、全滅の危機にさらされていた。救出作戦が始まり、歩兵第168連隊の無線分隊も加わった。分隊長だった今里淑郎さん(93)は宝塚市IIが振り返る。



太平洋戦争当時、ビルマのジャングルを進む日本兵

「よくやった」で死ねる

IIが振り返る。

「中国軍がね、服装から装備、戦闘様式まで、完全なアメリカ方式になってまんねん。相当、教育の守備隊はやられるはずや、すごいのが来たと思

関銃を持って攻めてきたんですわ。なるほど、これは（ビルマに近い中国雲南省の）拉孟と騰越（現在の龍陵直と騰冲県）の守備隊はやられるはずや、すごいのが来たと思

襲し、守備隊を支援。部な隊本部が集中砲火を受けると次第に戦況は悪化するなど次第に戦況は悪化した。脱出を助けた

そして、12月15日の朝。守備隊は一通り射撃を受けながら敵中突破を敢行、救出は成功した。だが、

「やっぱり人間の一番最後はね、褒めてやらんと死ねまへんねん。部下が弾に当たって苦しんでるときは、抱き起こして

「上りの斜面に伏せて、部下の黒岩という上等兵の足を握っとったんや。そしたら迫撃砲が、その頭に直撃してね。私の背中の発電機にも破片が当たったんや。黒岩は即死ですな。私も平らな所や



旧防衛庁が編集した戦史叢書によると、今里さんらの救出部隊はバーモ南東の高地で中国軍を急

「私は、山の谷間に入ってしもてな。周りが森林で、無線の信号が聞き取りにくいねん。雑音

80人が戦死し、救出す

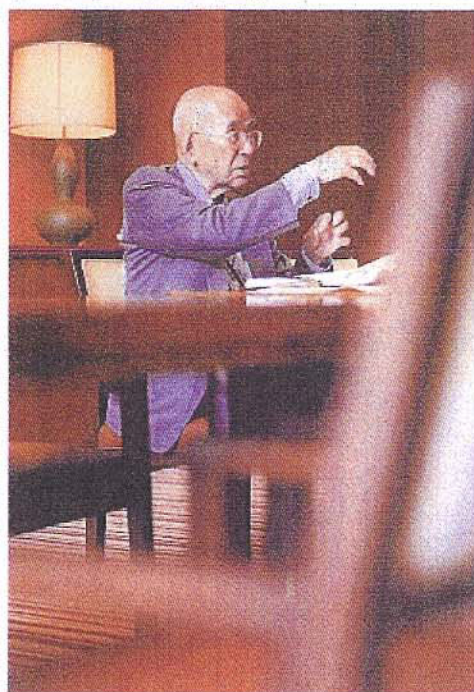
「それが、息も絶え絶えやのに手が回らんでほ

「それが、息も絶え絶えやのに手が回らんでほ

シリーズ 戦争と人間 第7部

ビルマ 地獄の敗走

6



「食料の補給はなく、水草の新芽を摘んで煮沸したりへびを干物にしたりして食べた」と話す今里淑郎さん＝宝塚市宝梅2（撮影・峰大二郎）

へんかったからね」

「感状」もらい奮い立った

宝塚市の今里淑郎さん（93）が歩兵第168連隊で率いた無線分隊は、ビルマ（現ミャンマー）北部、バーモの日本軍守備隊救出に貢献したことで功績をたたえる賞状「感状」を受ける。1944（昭和19）年12月21日付。そこには、19も

の部隊名が書かれていた。

「紙で書くんは、ただでしょ。でも感状なんて

の無線分隊も感状に部隊名が載ったから、分隊長の私が2階級特進する資格を与えられたんや。そだ感涙に咽ぶばかりであ

れ、感状の中身が読み上げられた。「読むもの、これを聞くもの、共にた

電池があるんやけど、特や」

で、最後には少尉になった」とある。ただ、感状で士気を高めることは

んようにと、新聞紙に油を引いたような雨がっぱにビルマ北部で戦った

45（昭和20）年2月、今里さんらの歩兵第16

旧防衛庁が編集した戦史叢書によると同月20日

夜には、守備隊と合同で戦死者の慰霊祭が営ま

能が悪くてね。ビュービ掛けたり、苦勞しましたらういう補給は全然考えて

（森 信弘）

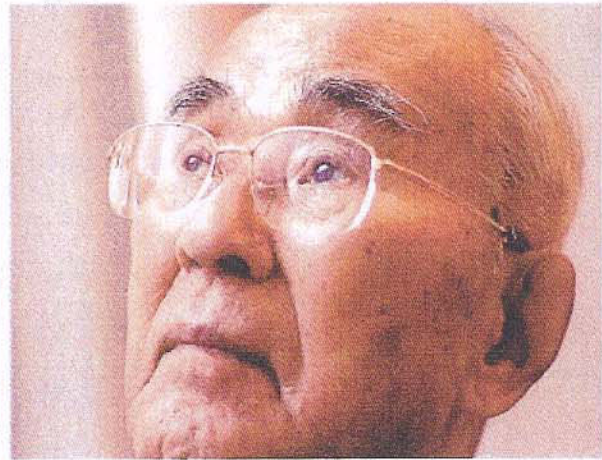


シリーズ 戦争と人間 第7部

ビルマ 地獄の敗走

Ⅲ

ビルマ(現ミャンマー)のやけどね。敵がおる中部のメイクテラで、連合軍の戦車に包囲された陸軍歩兵第168連隊ね。向こうはテントで無線分隊長の今里淑郎さん(93)は、危急の事態を伝えようと陣地を抜け出した。夜の闇に紛れ、部下と2人で山道を急いだ。1945(昭和20)年3月1日だったと記憶している。



メイクテラでの戦いを振り返る今里淑郎さん。「伝令の任務は遂行したけど、仲間はやられてしまった」=宝塚市宝梅2(撮影・峰大二郎)

命懸けの伝令 味方は壊滅

「今でも、よう分から敵陣を抜けて丘に登ったおった部隊の元に到達できるときには、よう越えてきたきたんです。ところが、なあ、と思いましたが」

「結局、10キロほど歩いたんですかな。第168連隊のうち離れた場所に

った。

「ダーン、ダーンと砲声が出てね。残してきた味方がやられとんのです。私は陣地を知ってるから、あんな所、戦車で撃たれたらイチコロや、と分かるんですわ。対戦車砲なんか無いし、じゅうりんとされますね。機関銃でもやられるしね。結果死んだか、あいつも死んだかとなりませうね」

この戦闘を含めた一連の「メイクテラ会戦」で、日本軍は惨敗した。当時、ビルマ戦線では日本と行動を共にしてきたビルマ軍の反乱もあり、戦況は悪化するばかりだった。同年7月、今里さんは歩兵第168連隊通信中隊から、第49師団の通信隊に転属になった。

(森 信弘)

ビルマ 地獄の敗走

14

1945（昭和20）年迎える。

の7月ごろ、ビルマ（現ミャンマー）の南部まで敗走してきていた陸軍第49師団通信隊の今里淑郎さん（93）＝宝塚市＝は、軍曹から将校の少尉に昇格する。それまでの激戦で将校が不足していた。今里さんは、ビルマ北部バーモの守備隊救出作戦で功績をたたえる賞状「感状」を受けていたため、2階級特進した。そして、8月15日の終戦を

「やれやれ、と思ったね。その1年前やったら戦う気もあつたけど、もう弾も人もなくて八方ふさがりでした。やっと終わった、とほっとしましたね」



手元に資料を置き、ビルマ戦線の記憶をたどる今里淑郎さん＝宝塚市宝梅2（撮影・峰大二郎）

「戦死したら、小さな指だけ焼いて、死体は埋められたらいい方でし

大解釈したのかもしれない。後で検査も何もなかったんですよ。英語で反論さえできたらね。ほんまに情けなかったね」

た竹を缶に入れて、燃やすわけですわ。細い竹は標が出んから、敵に見つからんのです」

船は広島県の大竹港を

「それを捨てろと言われて。英語が通者なもん

がおらんから、反論でき

んのですわ。命令に従わ

んと、私らは帰らしても

らわれへんかもしれんと

にそんな力があつたんや

という感じですよ。私自身

も涙が出ましたよ。もう、

絶対帰れんと思つたビル

マから、帰つて来たん

やから。それで大竹の港

に着いたら、みんな腰が

抜けてもてね、立ち上が

られへんのや。よっぽど

うれしかったんでしょ

うれしかつたんでしょ

（森 信弘）

部下の遺骨泣く泣く海へ

パプン周辺で、戦時中に

陥没した道路の補修など

の労働をさせられた。翌

46（昭和21）年の6月。

ビルマ南部のモールメン

「そんな時、戦死した部下の指の遺骨を5、6人分だけ持ったんです。分だけ持ったんです。通訳した日本兵が

「みんな甲板へ出て」わーっ」と大きな声で叫ぶんですよ。骨と皮だけになった兵隊がね、ここにそんな力があつたんやという感じですよ。私自身も涙が出ましたよ。もう、絶対帰れんと思つたビルマから、帰つて来たんやから。それで大竹の港に着いたら、みんな腰が抜けてもてね、立ち上がられへんのや。よっぽどうれしかったんでしょ

シリーズ 戦争と人間 第7部

ビルマ 地獄の戦走

15

ビルマ(現ミャンマー) 亡くなって、兄貴もフィ戦線で通信兵として戦った今里淑郎さん(93)は宝です。次男やっただは私はず塚市は1946(昭和20)年7月中旬、広島県へその緒からばい菌が入りさんが所属していた陸軍歩兵第168連隊の戦没者名簿によると、出動した3530人のうち、復員を確認できたのはわずか694人とされる。

「帰ってきたらね、両親は病気がけがもどで



娘の死を機に戦友慰霊



陸軍歩兵第168連隊の戦没者慰霊碑の前で、手を合わせる今里淑郎さん(左から2人目)ら=2003年2月、ビルマ・メイクテラ(今里さん提供)

クテラを訪ねた。

地霊園を完成させた。

「幻やと思うけど、私がお経を読み上げたらね、ざーっと戦友たちが目の前に出てきたんです。ほんまに感激しました。彼らがいかかわれわれを待ち焦がれてたか、ということをますます思いましたね。それから、ビルマで慰霊を続ける気になったんですわ」

今里さんは、90年代

「お互いに『あんたが憎くて戦ったんじゃない。国と国との戦いやから』『友人や、友人や』というふうな話をしました」

自分の「宝物」が5分ごと顔をしめかめるのに、どうすることもできない。そしたら、娘の顔に

「それで初めて、ちゃんと慰霊をせなかん、行を重ね、国内で戦死者の供養を続けた。78(同)年2月には、全国で大成りやっただけです。あの人がバスに乗ってからも、手を振り合

「その日は盛り上がり

ビルマでの戦友の顔が重なりました。娘が命をささげて戦友の慰霊をしてくれと忠告して

長女が亡くなったのは1948(昭和23)年4月、戦後初めてビルマへ渡り、多くの仲間が命を落(旧ラングーン)に1つを越える広大な日本人墓

シリーズ 戦争と人間 第7部

ビルマ 地獄の敗走

16

ビルマ(現ミャンマー) につて、なんとかできたん
戦線から復員した元陸軍 少尉の今里淑郎さん

(93) 川宝塚市は、19 今里さんは、親しかつ
90年代から数年ごとに たミャンマー人の女性が
回国への慰霊の旅を続け 保証人を引き受けてくれ
た。2006年2月には、 たこともあって、回国で
それまでの5年ほどの修 の試験に合格する。高い
行を経てミャンマーの僧 籍を取得する。83歳にな
っていた。



ミャンマーで僧籍を取得した今里淑郎さん(右)と現地の僧侶(2006年、同国
モービー(今里さん提供))

「犠牲の上に今の世がある」

「ビルマ戦線に行った 位の僧侶「上座僧」に認
元将校ばかり5人で慰 定され、更新してきた。
霊について話した時
にね、いっそビルマの僧 「私は分隊長やったか
籍を取ろう、となったん ら、復員後に遺族から『あ
ですわ。そのために高野 なただけ逃げて帰って
山(和歌山県高野町)と きたんか』とか言われま
かで修行したけど、座禅 した。一時は随分うなぎ
や瞑想、座学もあってき きました。負い目という
ついでです。私だけ、そ より、助けられなかった
れまでに日本の僧侶の資 という責任を感じます
格を取ったこともあ な。部下が無残な姿で

死んでますからね。きれ 情が不安定だった。日本
い事とちやいますわな。 政府は、少数民族支配地
血を流して、息があつて 域への調査団派遣につい
も、見殺しにして置いて、 ようやく本年度中に
も、再開をする意向だ。 ちよつと力を入れんとい
けませんか。また現地に は「ころころしとるんやか
は「ころころしとるんやか
ら。それを一日も早く返
すよ。それを命令せな 部下の遺骨を二つ、三つ
見つけて、日本大使館の ね」

「以前、ビルマ北部で
関係者に渡したことがあ
りました。開発が進んで
今年7月、ビルマ戦線

ミャンマーは長年、政
ないし、自分で埋めた所
の戦没者慰霊を続けてき

た高野山成福院で、50
回目の慰霊法要があつ
た。戦争体験者が少なく
なり、法要の中心を担っ
てきた今里さんは、その
運営を来年から戦没者や
復員兵の子どもらに引き
継ぐことを表明した。

「肩の荷が下りた気が
しました。しかし、生き
てる間は慰霊については
忘れられません。体の
続く限り続けたいと思て
ます。慰霊を忘れたら、
分隊長の値打ちはないで
すわ。あれから70年もち
ちましたけど、今の世が
あれだけの犠牲を払った
上に成り立っておるとい
うことを、忘れてほしく
ないですな」

(森 信弘)

神戸新聞NEXT
で、従軍体験を語る今
里淑郎さんの映像を公
開しています。

シリーズ 戦争と人間 第7部

BS 日テレ深層ニュース 「戦後70年スペシャル」

2015. 8. 11 放映

